



飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. 45

The Iida City Institute
of Historical Research

飯田市歴史研究所

〒395-0002

長野県飯田市上郷飯沼3145

TEL 0265-53-4670

FAX 0265-21-1173

E-mail iihrr@city.iida.nagano.jp



歴史研究所の平成22年度事業概要

1 市誌編さん事業

歴史研究所の調査研究活動の成果を集約公開し、身近な地域の歴史と文化を市民に知ってもらう取組を行います。

- (1)「飯田・下伊那史料叢書2 建築編1」の刊行
- (2)ジュニア・ライブラリー3「飯田の建物」(仮題)の刊行
- (3)平成24年度刊行する、旧飯田町・上飯田町地域の全体史叙述編の準備を進めます。



建造物調査

古文書整理作業
(中学生職場体験)

2 調査研究事業

資(史)料の現状記録調査、歴史的建造物調査、聞き取り調査(オーラルヒストリー)などを行うとともに、地域の歴史・文化を解明していきます。市民や研究者、大学等の研究機関との協働で行い、その成果を研究集会・年報等で公表していきます。

- (1)研究成果の公表(刊行物)
 - ・歴史研究所年報8
 - ・聞き取り調査報告書『下伊那のなかの満洲 第8集』
- (2)第8回飯田市地域史研究集会
 - ・開催時期：8月21日(土)～22日(日)
 - ・テーマ：「城下町飯田」
 - ・研究集会の目的：旧飯田町・上飯田町の歴史
 - ・講演「飯田城下町の形成過程」
「シャルルヴィルの都市アイデア」
- (3)飯田＝シャルルヴィル・メジェール史学交流会
 - ・開催時期：8月19日(木)～20日(金)
 - ・テーマ：「伝統都市の比較史」
 - ・史学交流会の目的：「人形劇のまち」として
友好都市の2市を比較研究
 - ・円座「小規模伝統都市論—飯田とシャルルヴィル」
「伝統都市の周縁」
- (4)歴史研究活動助成
市域を対象にした研究活動を助成することで人材の育成に努め、研究成果の蓄積を図り、広くその成果を地域に還元していきます。
- (5)定例研究会
研究所のさまざまな研究活動を促進するため、研究会を公開で行います。
- (6)ふるさと雇用再生特別事業・緊急雇用創出事業による史料調査を進めます。

3 教育事業

市民が自分たちの住む地域を知り、地域を大切に思う心を培っていきます。併せて市民研究員を始め、調査研究や教育を行う人材の育成を目指します。

- (1)地域史講座の開催
飯田・下伊那の歴史を題材とした最新の地域史研究の成果について発表します。
- (2)飯田アカデミアの開催
歴史学を中心とした外部の講師による大学専門課程レベルの学術講座を開催します。
- (3)歴研ゼミナールの開催
市民が主体的に歴史を学んでいく場として、近世史ゼミ・近現代史ゼミ・思想史ゼミ・建築史ゼミを開催します。
- (4)学校教育との連携
「職場体験学習」の受け入れや高校生を対象とした歴史学オリエンテーションなどを開催します。
- (5)情報紙「歴研ニュース」
を年6回発行します。



旧役場文書整理作業

4 アーカイブズ保存活用事業

地域に生きる市民にとってかけがえのない財産であるという観点から、地域に残るアーカイブズを収集・保存・公開し、市民や研究者が史料を積極的に活用できる体制・環境を整えます。

- (1)旧役場文書や学校など公的機関の歴史資料の保存・公開・活用
- (2)市役所の非現用文書の保存
- (3)私文書の保存・継承の支援および公開

5 施設の利用

調査研究によって整理蓄積された収蔵史料や目録など情報を積極的に公開し、また、関係図書を書架に置いて、市民や研究者等の閲覧や利用に関するサービス向上を図ります。



地域史研究集会(昨年度)



シャルルヴィル・メジェール市街地風景

フランスとの史学交流から、飯田でのラウンドテーブル開催まで



都市史研究会（東京大学大学院建築史学研究室・伊藤毅教授と1990年設立）の2008年2月例会で、フランス・ソルボンヌ大学のフランソワ・ジョゼフ・ルッジウ氏を招いてラウンドテーブルが開催されました。また、2009年3月、パリのアンリ4世高等学校で高校生・大学生・一般・研究者を対象に、歌舞伎・寄席を切り口に「江戸の社会」というテーマで私が講義を行った折にも、ルッジウ氏が同席していました。フランス都市史研究者を代表するルッジウ氏は、「人口・家族・移動」に関する研究についてシャルルヴィル・メジエール市をフィールドの一つにしており、偶然にも友好都市である飯田において、ぜひ史学交流会を開催したいと要請をしましたところ快諾をいただきましたので、夏の地域史研究集會に併せてラウンドテーブルを計画しました。

似かよった伝統都市の多様な文化的個性を考える

歴史研究所第2期中期計画の重点として進めている、旧飯田町・上飯田町地域の全体史叙述編刊行に向けて、飯田町（伝統都市）の社会＝空間構造を分析する上で比較史の方法等から深化させ、その構造を浮き彫りにしていきたいと考えています。飯田とシャルルヴィルは、両市とも、17世紀から城塞都市として栄え、小規模都市として現在に至っているという、国も言葉も人種も異なる二つの都市ですが似かよった事象が存在しています。多様な文化的個性を持つ二つの伝統都市について相互に知り合うことから、社会的結合の特質を軸に精緻に明らかにしていきたいと考えています。



過去の遺産を継承し「地域社会」をとらえ直す

財政規模の小さな市が独自の恒久的な地域史研究事業を維持するのは、重い課題であると認識しています。

飯田・下伊那地域において地層となって豊かに堆積する過去の遺産を継承し、地域の歴史過程を把握・解析することは、飯田・下伊那の「地域社会」を考え、とらえ直すことに繋がると思います。それは、全国的な課題となっている「地域社会」の創造と持続を考えるうえでも重要な取組となることでしょう。



「飯田町の暮らし」につづき、ジュニア・ライブラリー2でも、取材にご協力いただいた、関島 登さんに「水引のまち飯田」刊行に寄せてお話しをお聞きしました。

Q.ジュニア・ライブラリー2「水引のまち飯田」のご感想をお聞かせ下さい。

A.（関島）飯田が水引の産地だと知ってもらえる本だと思う。私が昭和50年代に水引工芸館を作ったのも、「飯田をとにかく見てもらおう」「飯田が元ですよ」という思いがあったことでした。飯田に住んでいる人、大人も子どもも、そして飯田以外の人も含めて知ってもらいたい本です。

Q.のし袋の水引から立体作品へと変わっていった課程を教えてください。

A.（関島）最初は「鶴」。平面の鶴を、あわじ結びを工夫する試行錯誤の繰り返しでした。どんな物も「結び」が必ずあります、それが水引本来の意味ですから。のし袋の上の「飾り」から「工芸」へと方向転換して、「商売」よりも「結びあう心」を伝えられたら良いんだと考えていました。

Q.試行錯誤というと、具体的に、彫刻などを見られるのですか。

A.（関島）まず、本物をよく見ます。映像とかも。その後、私の頭の中に居る鶴や鯛を、指で水引をしごきながら、第一に大切な結びから発展させていきます。既に出来上がっている他の作品を見て、それを参考にすることは全くありません。イメージの形に集中して、気持ちを込めて細工してだけです。だから、全く同じ物はできません。

Q.水引を何本指で拾うか、水引をどの程度しごくか、その時の左手の指先の感覚だけが全てということですね。

A.（関島）そうです。新しい作品を創るとき、最初に完成したものが一番上手に出来ているように思います。「なんとか形にしたい」「こんな風に創りたい」という気持ちの入り方がちがうのでしょうか。不思議なもんです。

Q.関島さんが期待する、これからの水引とは、どのようなものでしょうか。

A.（関島）飯田の「水引」が、のし袋として全国に流通拡大することも大事だが、もう一方で、本来の水引そのものにこだわって、工芸として広がったり、世代を超えて伝え続けることも大事だと思います。紙の持つ「繊細さ」「清らかさ」「しなやかさ」や、細い水引の一本一本が作り出す空間も含めて、必ず結びが織り込まれていますから、そういうところも見たいです。県外にも弟子がたくさん居ますので、いろいろな発想で水引を使った作品が創られますが、私はまず「結ぶ」という水引本来の意味を伝えています。子ども達に水引の結び方を教える時も、上手にできる事より、まず、昔からどうやって水引が使われてきたかを話します。後継者育成もなかなか難しい問題ですけど、活かしていきたいものは水引という素材であり、伝えていきたいことは人と人の和、心と心の縁という「結び（結い）」の大切さです。



数々の作品を披露くださる、関島さんの人差し指が変形しておられ、つい、視線を留めてしまいました。それに気づかれた関島さんは、「水引をしごくとこうなるんな。水引は、日によって堅い時もあれば柔らかい時もある。もう、何十年もこの指だけで、こうやって結んできたな。」と微笑みながらおっしゃいました。

飯田アカデミア2010

専門の研究者を講師に、歴史研究の最前線を分かりやすく講義します。
より多くの皆さんにお集まりいただけるよう、各講座は1日のみの聴講も可能となっています。ぜひご参加ください。

第56講座

テーマ「城下町萩の社会構造」

講師 森下 徹 (もりした とおる) さん (山口大学教育学部教授)
場所 りんご庁舎 3階 会議室

6月5日 (土) 13:30~17:00 「萩の町と町人」

江戸・京都・大坂といった巨大都市を中心に進められてきた近世都市史研究の成果をふまつつも、地方城下町の個性はどのような視座や方法によってあきらかになるだろうか。

城下町のうち町人地をとりあげようとすれば、まずは基礎単位としての町と町屋敷のあり方が問題となろう。ところが萩においては、その点が江戸などで想定されてきたものとは異なっていた。萩城を中心に身分別の整然としたゾーニングがなされた、典型的な城下町のように見えながら、より仔細に観察すると独自のあり方がうかがえるのである。そのことを手がかりに、地方城下町を類型化してゆく方法を考えてみようと思う。

6月6日 (日) 10:00~14:30 「城下町と武士」

いうまでもなく城下町は、兵農分離を経た家臣団の拠点として建設されたものだった。しかし萩藩にあつては当初から、知行所に居住したがる家臣に城下町への移住が命じられるほどだったし、中期以降になると藩公認で農村部に借家するものも増えてゆく。それらは城下町に居住することにともなう役負担を逃れるためだった。また生活難から拝領屋敷を売却するケースも広汎にみいだせる。一言でいえば空洞化・流動化が相当程度進展していた。一般的な城下町イメージからは想像しがたいことかもしれないが、こういった武士の居住形態を通して、萩城下の独特なあり方を浮き彫りにしてみたい。

第57講座

テーマ「近世パリに生きる」

講師 高澤 紀恵 (たかざわ のりえ) さん (国際基督教大学教養学部教授)
場所 りんご庁舎 3階 会議室

6月19日 (土) 13:30~17:00

6月20日 (日) 10:00~14:30

第58講座

テーマ「関東大震災」

講師 鈴木 淳 (すずき じゅん) さん (東京大学大学院准教授)
場所 上郷考古博物館 1階 会議室

7月3日 (土) 13:30~17:00 「震災の概況と研究状況」

7月4日 (日) 10:00~14:30 「震災直後の対応と教訓」

りんご庁舎3階会議室 (飯田市本町1丁目15番地 飯田市地域交流センター)
上郷考古博物館1階会議室 (飯田市上郷別府2428-1)

受講料 1講座 500円 (資料代)

申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申込みください。

ながの電子申請サービス (<http://shinsei.e-nagano.lg.jp>) でもお申込みできます。

歴研ゼミ 4月・5月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。
各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

- 時間 午後7時~8時40分 (各ゼミ共通)
- 場所 歴史研究所2階研修室 (各ゼミ共通)

思想史ゼミ

—思想史から戦後を読み解く—

私たちはどういう時代に生きているのでしょうか。近代から現在に至るそれぞれの時期の「言葉」を読み、一緒に考えていきたいと思えます。まずは戦後の短い文章から読み始めて、その後は参加者の読みたい文章をテキストに進めていきます。

- 開催日 4月21日/5月19日 (第1・第3水曜日)
※4月第3水曜日からの開講です。
※5月第1水曜日は祝日のため休講です。
- 担当 池田勇太 (研究員)

BOOK

第1回地域史惣寄合報告集

地域史の現在

地域史叙述に取り組む全国各地の公的機関・大学・NPOなどが、個別の活動事例を紹介しつつ、地域史と「地域社会」のこれからを話し合った記録集です。

ぜひ手に取ってお読み下さい。

地域史惣寄合呼びかけ人 編
歴史研究所年報 別冊
B5判 131頁
定価 800円



近世史ゼミ

- 開催日 4月6日・20日/5月18日 (第1・第3火曜日)
※5月第1火曜日は祝日のため休講です。
- 担当 竹ノ内雅人 (研究員)

近現代史ゼミ

- 開催日 4月8日・22日/5月13日・27日 (第2・第4木曜日)
- 担当 田中雅孝 (調査研究員)

建築史ゼミ

- 開催日 4月13日/5月11日 (第2火曜日)
- 担当 金澤雄記 (研究員)

歴研日誌

2月

- 2日 歴研ニュース44号発行
- 2日 近世史ゼミ「長久寺と松澤氏の争論2
(飯田・上飯田の発展と寺社)」
- 5日 長姫高校課題研究発表会「町屋建築」
—長姫高校建築学科生徒(鼎文化センター)
- 5日 湯沢政一氏聞き取り調査1「義勇軍について」
—齊藤俊江調査研究補助員
・橋部進市民研究員(座光寺)
- 7日 NPO法人自然環境復元協会「田舎で働き隊！」
ワークショップ講演「長谷川家の本棟造について」
—金澤雄記研究員(上久堅越久保センター)
- 7日 「飯田・上飯田の歴史」研究会
- 9日 建築史ゼミ「大火前航空写真・煙草乾燥蔵」
- 16日 近世史ゼミ
「六ヶ村入会市瀬街道争論二付返答書写控」
- 17・18日 旧羽田八幡宮文庫の南信関係史料調査
—竹ノ内雅人研究員(豊橋市中央図書館)
- 18日 近現代史ゼミ「『飯田町の暮らし4』編集」
- 25日 近現代史ゼミ
「文献講読打合せ 胡桃沢盛日記翻刻打合せ」
- 27日 定例研究会「役用古記録から見る近世後期の飯田町」
—竹ノ内雅人研究員

3月

- 2日 近世史ゼミ「『郷土の桜』一本桜の数々 環境と生命力」
- 3日 岡島旭氏所蔵文書調査
- 4日 (財)福武学術文化振興財団研究助成贈呈式
- 2~5日 山本マイクロ部奈家史料フィルム撮影
- 5日 湯沢政一氏聞き取り調査2、古文書寄附
—齊藤俊江調査研究補助員・橋部進市民研究員(座光寺)
- 5・6日 国会図書館憲政資料室史料調査—本島和人調査研究員
- 6日 地域史講座「松尾大森本の家と周辺の社会シリーズ3」
『公事から見る島田村とその周辺』
—竹ノ内雅人研究員(松尾公民館2階講座室)
- 10日 非現用公文書愛宕蔵搬入整理作業
- 10日 崔氏聞き取り調査—本島和人調査研究員(松本)
- 10日 建築史ゼミ「城下町」
- 10日 飯田観光ガイドの会研修会講義「上飯田の古地図」
—竹ノ内雅人研究員(保健センター3階会議室)
- 11日 近現代史ゼミ「『飯田町の暮らし4』校正作業」
- 12・13日 歴史研究助成報告会(上郷公民館103号会議室)
- 12~15日 東京大学日本史学研究室近世史ゼミ現状記録調査
- 13日 アカデミア第55講座
テーマ1「日本産業革命と下伊那の蚕糸業」
- 14日 アカデミア第55講座
テーマ2「世界大恐慌と下伊那の組合製糸」
—田中雅孝調査研究員(りんご庁舎3階会議室)
- 14日 「飯田・上飯田の歴史」研究会
- 14日 建築士会街並みハイク—金澤雄記研究員
- 16日 近世史ゼミ「五月廿三日付春一郎宛鉄胤の書簡より」
- 18日 小沢氏史料受け入れ
- 19日 非現用文書廃棄作業
- 20日 鼎歴史を学ぶ会学習会「鼎村葬について」
—本島和人調査研究員(鼎公民館3階講義室)
- 23~25日 大宮諏訪神社縁起展示(中央図書館2階研修室)
- 23・25日 大宮諏訪神社縁起展示説明会
—竹ノ内雅人研究員(中央図書館2階研修室)
- 23~26日 座光寺小学校史料調査
- 25日 定例研究会「大平史 市瀬街道争論文書を読む」
—清水迪夫調査研究補助員
- 25日 近現代史ゼミ「本年度の反省と来年度の計画」

■継続調査 部奈一朗氏所蔵文書、松澤卓治氏所蔵文書、上松家所蔵文書、北原嘉雄氏所蔵文書、小林八十吉氏文書、原常吉氏所蔵文書、三石善雄氏所蔵文書、今村八束氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初美氏所蔵文書、田中伍市氏関係史料、中原謹司氏史料、嶋岡和治氏所蔵文書、篠田貞三氏所蔵文書、鎮西徹氏所蔵文書、阿智村伍和木下家襖下張り文書、岡島旭家所蔵文書、田中和子氏所蔵文書、飯田市民館非現用文書

地域史講座 飯田・上飯田の歴史

旧飯田町・上飯田町地域の歴史について、史料を読みながら考えていきます。

5月29日(土) 「明治初年の藩政改革」
午後2時~4時

- ・講師 池田勇太(研究員)
- ・場所 りんご庁舎 3階会議室

定例研究会

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

4月24日(土) 「明治期清内路村のたばこ生産」
講師：竹ノ内雅人(研究員)

5月22日(土) 「川路分村の送出過程と家族構成」
講師：本島和人(調査研究員)

場所：歴史研究所2階研修室 時間：午後2時~4時

4月・5月の催事スケジュール

	4月	2010	5月
木	NL45発行	1	土
金		2	日
土		3	月
日		4	火
月		5	水
火	近世史ゼミ	6	木
水		7	金
木	近現代史ゼミ	8	土
金		9	日
土		10	月
日		11	火
月		12	水
火	建築史ゼミ	13	木
水		14	金
木		15	土
金		16	日
土		17	月
日		18	火
月		19	水
火	近世史ゼミ	20	木
水	思想史ゼミ	21	金
木	近現代史ゼミ	22	土
金		23	日
土	定例研究会	24	月
日		25	火
月		26	水
火		27	木
水		28	金
木		29	土
金		30	日
		31	月

開所日

休所日

開所時間 午前9時~午後5時

休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日~1月3日